

男女がともに歩むまちづくり

キーワード

男女共同参画

人権尊重の理念を社会に根づかせ真の男女平等の達成を目指す概念であり、とりわけ、男女があらゆる分野の政策・方針決定の場に平等(同等)に参画することを重視する。

セクシュアル・ハラスメント

性差別の具体的な現われとして職場や学校で起きる性的いやがらせを指す。相手の意に反した、性的な性質の言動であり、身体への不必要な接触、性関係の強要、性的なうわさの流布、衆目に触れる場所へのわいせつな写真の掲示等が含まれる。

ドメスティック・バイオレンス

夫(パートナー)や恋人からの暴力。広義では、女性、子ども、高齢者等、家庭内弱者への「継続的な身体的虐待、心理的虐待、基本的ニーズの剥奪、性的虐待」を示す。

ポジティブ・アクション

過去における社会的構造的な差別によって現在不利益を被っている集団(女性や人種的マイノリティ)に対し、一定の範囲で特別な機会を提供すること等により、実質的な機会均等の実現を目指す暫定的な措置。

クオータ制

ポジティブ・アクションの手法の1つで、審議会等の委員の数が、男女のいずれかに偏らないように、比率を定めること。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康/権利)

「女性の性と生殖に関する健康と権利」の確立にかかわる包括的な考え方。1994年の国際人口・開発会議において提唱され今日個人、特に女性の人権の1つとして認識されるにいたっている。その中心課題には、いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足いく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが望まれて健康に生まれ育つこと等が含まれている。

ジェンダー

社会的、文化的につくり上げられた「性差」をジェンダー(Gender)という。「男らしさ」「女らしさ」など、人々の意識の中に根づいた後天的な「性差」のことで、染色体や遺伝子、解剖学上の特徴による生物学的な性(Sex)と区別して用いる。

性別役割分業

女だから、男だからという性別を根拠に割り振られた男女の役割をいう。「男は仕事、女は家庭」など、ジェンダーから派生している部分が大きな比重をしめている。

エンパワーメント

「力(パワー)をつけること」をいう。自分自身の生活と人生を決定する権利と能力をもち、社会的、経済的、政治的、意志決定過程に参画することを意味する。